

日 時  
授業場

児 童 5年  
授業者

1. 題材名 思いを表現に生かそう（歌唱）～Believe～ A表現ア, イ, ウ（イ）（ウ）  
【共通事項：音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱, 音の重なり】

## 2. 題材観・子供観・指導観

本題材では、A表現「ア歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと」「イ曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること」「ウ思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けること」を主なねらいとしている。

本題材「Believe」は、NHKで放送された動物番組『生き物地球紀行』の主題歌である。また、曲中で転調することから、音楽を形づくっている要素である旋律や音色に着目して、曲想からイメージしたことを声の出し方に生かすことができるような楽曲である。さらに、作詞・作曲をした杉本竜一は『信じることの大切さを曲に託した』というメッセージにあるように（※教育芸術社5年音楽教科書より引用）、歌詞からも思いや意図をもって歌い方を考えて工夫することができる教材となっている。

本学級の児童は、前題材で取り扱った『こげよマイケル（3部合唱）』や『夢の世界を（2部合唱）』では、自分たちの歌声を録音したものを聴き、よりよくするためにはどのような歌い方をすればよいのかについて工夫したことを話し合ったり、練習した成果（歌声）を学級や学年で発表したりするなど、歌うことに興味関心をもつ子が多く、学級で考えていく活動にも意欲的に取り組む姿が見られた。また、今回扱う「Believe」については、曲についての思いを共有したり交流したりすることを通して、よりよい歌唱にし、学芸発表会にて披露することになっている。

本時では、曲想と音楽を形づくっている要素や歌詞との関わりを仲間と言葉で伝え合ったり、歌声で表現したりすることを通して「こんな歌い方ができそう」「歌詞に〇〇があったから□□の声にした方がいいよ」などと、児童自ら進んで歌い方の工夫を考慮することができるような課題を設定していく。そこから、子供たちの思いが込められた歌にするためにどのような工夫ができるのかと、多様な考えやよりよい表現ができるように発問や問い返しを工夫することで、深い学びとなるようにしていきたい。

## 3. 題材の目標

- 曲想と音色, 速度, 強弱, 音の重なりや歌詞の言葉などとの関わりを理解して、曲想の変化を味わいながら、自身の歌声と仲間の歌声を合わせたり、響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。
- 曲想と歌詞の言葉や音楽を形づくっている要素, 自身や仲間の歌声との関わりについて考え、それらに合った歌唱の表現の仕方について思いや意図をもつ。
- 既習事項を生かして、曲想の変化や音が重なることの美しさと歌詞の言葉や音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱との関わりを生かしながら、曲想にふさわしい表現となるように工夫したり、仲間と声や気持ちを合わせて表現したりする活動に親しむ。

## 4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 呼吸や発音の仕方に気を付けて、各声部の歌声を聴きながら自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。 ② 曲想と音色, リズム, 旋律, 強弱, 音の重なりとの関わりを理解し、曲想の変化を味わいながら、自身の歌声と仲間の歌声を合わせて歌っている。	① 曲想と歌詞の言葉や音楽を形づくっている要素との関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	① 曲想の変化や音が重なることの美しさと歌詞の言葉や音色, リズム, 速度, 旋律, 強弱との関わりを生かしながら、曲想にふさわしい表現となるように工夫したり、仲間と気持ちを合わせて歌う活動に取り組もうとしている。

5. 題材のデザイン (全5時間)

主張する手立て

時	○学習活動・学習内容	子供の姿 (楽しさ) の変容	●主な教師の関わり・手立て	評価の観点		
				知	思	態
1	○Believe の歌唱活動に関心をもつ。 ・Believe を鑑賞し、曲全体の感じをつかむ。  ・どんな特徴があるのか聴いた歌声や楽譜から気付いたことについて交流する  ・どのような思いをもって歌いたいか交流する。	複雑なリズムだ 音の重なりがいい 後半から明るい調に変わるよ 暗い感じじゃなく明るい感じで歌っている 聴いてくれる人に感動が伝わるような歌い方で歌いたい それぞれのフレーズ(場面に)合った歌にしたい	●最終的に学芸会で歌うことを伝え、「より精度の高い歌唱にして歌いたい」という思いにしている。 ●曲全体の感じをつかむことができるように、何度か曲を流すなどする。 <b>●どのように歌えばよいか考えながら聴こう(手立て①)。</b> <b>●「この曲はどんな特徴があるのかな？」(手だて②)</b>			①
2	○ソプラノパートを歌う。 ・呼吸や発音に気を付けながらソプラノパートを歌う。 ・フレーズごとに、歌うときに意識したいポイントを考える。 ・拡大楽譜に歌詞の意味や曲想の違い等歌う際に意識したいポイントを記載していく。 ※楽譜上、1番を①～④、伴奏を⑤、2番を①～④、転調後⑥～⑦とする。	V (プレス) を意識して歌おう 意識して歌おう 後半には調が転調するから、より明るく歌う。 強弱記号も考えながら歌おう	● <b>フレーズごとに曲想の違いを感じ取りながらソプラノパートの1番を歌おう(手立て①)。</b> ・フレーズごとに範唱を聴いて模唱する。 ・音の跳躍する部分を取り出して繰り返し歌う。 <b>●「それぞれのフレーズで意識したいポイントは何かな？」(手立て②)。</b>	①	①	
3	～本時のデザインを参照～					①
4	○音の重なりを意識しながらアルトパートと低音パートを歌う。 ・②～⑦のフレーズごとにアルトパート低音パートを歌う。 ・歌詞の言葉から歌い方をイメージしたり、前時までに共有したポイントを生かしたりしながら歌う。	ソプラノパートにつられぬように、旋律の動きを意識しながら歌う 歌詞の言葉をよく考えて歌うと、より思いが伝わるよ 音の響きをよく考えながら歌うとよさそう	● <b>旋律の音の動きを意識しながらアルトと低音パートを歌おう(手立て①)</b> ・②～⑦までのフレーズごとに範唱を聴いてアルトパートと低音パートを模唱する。 <b>●「それぞれのパートを歌う時に意識したらよいことは何かな？」(手立て②)</b>			①
5	○これまでに学習したことを生かして合唱する。 ・自分の声を一番生かせるパートを選択する。 ・各パートに分かれて練習する。 ・各パートの動きや役割を確認しながら合唱する。 ・合唱の様子を録画(録音)し、確認し合うことで、改善できるポイントを見だし、練習に生かす。 ・思いを込めて表情豊かに合唱する。	これまで練習してきたパート全部を合わせて歌いたい 自分の声に合ったパートはどれかな? 周りの歌声をよく聴きながら歌うと、重なりがよく感じられて歌いやすい 3部合唱になると、歌声がより豊かになるよ	・これまで練習してきた各パートの中から、一番声が出しやすかったり、自分の思いを込めたりすることができるパートを選択して歌うように声掛けをする。 <b>●音の重なりを感じながら、思いを込めて合唱しよう(手立て①)</b> ・互いに音(歌声)の重なりを感じ合いながら、無理のない歌い方で歌うように促す。 <b>●「音が重なり合うことのよいところは何か？」(手立て②)</b> ・第1時で共有した自分たちの“思い”を伝えられるような合唱となったかどうかの視点で最後に振り返りを行う。	②		①

6. 本時の目標

歌詞の言葉と音楽を形づくっている要素との関わりを話し合ったり歌ったりする活動を通して、自分たちの思いを一番込めることができるフレーズをどのように歌えばよいのかについての思いや意図をもつことができる。

7. 本時のデザイン

主張する手立て

○子供の学習活動・教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明)

**1. 本時の課題を捉える。**  
**■** 前はどんなことをしてきたかな？

・ソプラノパートが歌えるようになった ・歌詞の意味についても考えたよ  
 ・曲想の違いについても考えたよ

**■** では、ソプラノパートについては、もうみんながゴールとしていた“思い”を伝えることができそうだね

・伝えることができるよ・いや、伝わらないかも ・まだ工夫できそうなのがあるそう

**●** ソプラノパートの歌で“自分たちの思い”を伝えるために、どんな工夫ができそうかな？

・歌詞に合うように歌う？ ・強弱をもう少し意識する？

ソプラノパートの歌声で“自分たちの思い”が伝わる歌い方について考えよう

**2. 自分たちの思いが伝わるようフレーズを設定し、その部分についての歌い方を考える**

**●** ソプラノパートを歌う中で、一番自分たちの思いが伝わりそうなのはどこかな？

・曲の山(サビ)が③と④だから、一番自分たちの思いを伝えられそう  
 ・⑥と⑦は転調してより明るくなる部分だから、この部分の歌い方を考えてみるの？  
 ・⑥と⑦は曲の最後だから、より意識して歌ってみた方がいいと思う

**●** どのように歌えばいいかな？ (近くの人と交流+実際に歌ってみる)  
**▲** それぞれのフレーズの歌詞にはどんな言葉があるかな？歌詞からどんな歌い方にできそう？

	③	④
歌詞の言葉	1: 未来の扉, 悲しみ, 苦しみ 2: 素直な気持ち, あこがれ, 愛しさ	1: 喜びに変わる 2: 大空に弾けて喜びに変わる 共通: I believe in Future 信じてる
強弱	f	f
調	へ長調	

・③の歌詞には「悲しみ」「苦しみ」という言葉があるけれど、調はへ長調で明るい感じだから、明るい声で歌う  
 ・サビの部分だから強弱もfだと思うので堂々とした感じで歌う  
 ・④の歌詞に「未来を信じてる」とあるので前に前向きな言葉があるので、前に広がるような感じで歌う

	⑥ 転調	⑦ 転調
歌詞の言葉	未来の扉, 悲しみ, 苦しみ	喜びに変わる I believe in Future 信じてる
強弱	ff	ff, >
調	変ロ長調	

・③と同じ歌詞だけど、転調しているから、音の動き(音の高さ)を意識して歌う  
 ・最後に向かってしっかりと声で歌うけれど、終わり方をきれいにするために、>(デクレシェンド)でやさしく終わるようにして歌う

**3. 共有した歌い方を生かしながらソプラノパートを歌う。**  
**■** イメージした歌い方を生かして歌ってみよう。(※1～2回歌い、録画する)

・それぞれのフレーズごとの強弱から音色(声の感じ)を変化させながら歌った  
 ・結構、フレーズで強弱に変化があるから、声の大きさを意識した歌い方になったよ

**4. 前時の歌い方と今回の歌い方を比べる。**  
**●** 前回までの歌い方と比べてみるとどうですか？(ロイロノート)

・曲想だけでなく歌詞の言葉からも歌い方をイメージしたから、より素敵な歌になったと思うよ  
 ・歌詞に合った表現になったように感じるから、“感動”を伝えられそう  
 ・歌詞の内容と曲想がしっかりと合って、歌いやすくなった気がするよ  
 ・次は下のパートの練習をして、ソプラノパートを重ねてもっと“感動”が伝わる歌にしたい

◆留意点 ※評価

・録音した歌声を流したり、拡大楽譜を提示して前時の学習を振り返る。  
 ・「一度歌ってみたい」という声が上がった場合は、全体を通して歌うようにする。  
 ◆前時の学習を踏まえて「ソプラノパートは完璧に歌える」といった児童の声しか出ない場合、第1時で共有した本題材のゴールである“歌声で感動を伝えたい”というゴールの姿に立ち返り、「学芸会ではどのような思いを伝えたいのか」「今の歌い方で本当に伝えられそうか」といった補助発問によって本時の課題につながるようにする。

◆**探索: 曲想や歌詞の言葉との関わり**  
**制約: 自分たちの思いが伝わる歌い方について考えた本時の課題(手立て①)**

◆**本質的な気付きに迫る発問(手立て②)**  
 ◆曲想や音楽を形づくっている要素(強弱・調)と歌詞を関わらせながら交流させる。

※B 評価  
 曲想と歌詞の言葉や音楽を形づくっている要素との関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。  
 (発言・交流の様子・拡大楽譜の内容)

A 評価  
 曲想と歌詞の言葉や音楽を形づくっている要素との関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもち、仲間や教師にわかりやすく伝えていく。(発言・ワークシート・拡大楽譜の内容・歌声)

◆前時と本時の歌を聴き比べ、感じ取ったことをロイロノートに記入する。



## 8. 音楽科における主張

### (1) 音楽科における「深い学び」の具現に向けて影響力を発揮し合う「学び合い」

音楽科における深い学びは、音楽的な見方・考え方となる「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」を主体的・対話的な学びを通して行うものである。よって「深い学び」の具現に向けて欠かさないのが主体的であり、対話的であり、そしてそれらが音楽的な見方・考え方の視点を伴っているかが重要となる。そこで、それらが子どもたち一人ひとりの中に一体的に発揮し、「影響力を発揮し合う学び合い」に広がるために、音楽科ではかねてより着目している問題解決的なプロセスにおける課題設定及び発問を再度着目し、中心的な手立てとした。

#### 主張する手立て

- ① 探索の対象と制約を意識し、問いの深さを決める変数について吟味した深い課題の設定
- ② 本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫

### ① 探索の対象と制約を意識し、問いの深さを決める変数について吟味した深い課題の設定

これまでの研究を通して課題設定やそのプロセスを明確にもつことが学習者にとって学習活動が主体的且つ明確な目的を持つ活動につながることに一定の効果があることを得てきた。安齋も「課題」とは解決するために「前向きに合意された問題」としているように、今年度も課題に入るプロセスにおいて、十分学習者にとって合意が得られる（自分ごとになる）プロセスを経ることとする。今年度特に主張する手立てとしてはそのプロセスを経ることを諸条件としながら次の安齋が示す「問いを作成するポイント」について事前に検討し、その問いについて「問いの深さを決める変数」を指針として吟味することで課題のブラッシュアップを図り課題として設定することを手立てとした。

#### ●問いを作成するポイント

- ・探索の対象を決める
- ・制約を設定する
- ・表現を検討する

#### ●問いの深さを決める変数

- ・問うためにどれだけの視点がかかわるか
- ・人によって出す答えがどれだけ多様になるか
- ・仮の答えを出すためにどれだけ時間が必要か

### ② 本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫

学習活動の主体は子供たちではあるが、子供たちだけの活動に終止してしまうと「本質的な気づき」に気づかない、あるいは十分に味わうことができないことが考えられる。伊藤もコルトハーヘンの冰山モデルを用いて、「”見えている言動”は一部で、通常”見えていない部分”が、実はとても奥深い」としていることから、学び合いの中で「本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫」を手だてとすることで、学び合いが深まることを期待した。

#### [参考文献]

- 鈴木敏恵「問題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」教育出版 2012  
溝上慎一・成田秀夫 「アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習」 2016 東信堂  
内藤知佐子 伊藤和史 「シミュレーション教育の効果を高めるファシリテーターSkills&Tips」 医学書院 2017  
安齋勇樹・塩瀬隆之 「問いのデザイン」 学芸出版社 2020

※本時で扱う教材 Believe (混声三部合唱)

作詞作曲：杉本竜一 編曲：富澤裕

70

Believe  
(混声三部合唱)

杉本竜一 作詞  
富澤裕 作曲

Moderato ♩=90

1. (Soprano) (ソプラノ)  
 1. たまたまはあみがー あずついて くじけたら に かな たときは  
 2. もしもだれかがあ みのをばて なるだら

2. (Alto) (アルト)  
 かみはずはくが そばにいて あい えてあげると そのかたを  
 だま一うでを とりながら (7) いっしよにあらいて くれるよお

© 1998 by Suzuri Project K.K.

72

あなご ともや く し め が い  
 ー あ こ し め や く し め が い

4. いっしょに ー のひかーとらこ びに ー かある だ ー  
 のひかーはじけて ー ひかる だ ー  
 のひか ー のひか ー ー はじけて ー ひかる だ ー  
 のひか ー のひか ー ー はじけて ー ひかる だ ー

37. I believe in fu-ture しんじてる  
 I believe in fu-ture しんじてる

71

2. (Tenor) (テナー)  
 ああ いーこゝろの あはれし のり  
 ああ いーこゝろの あはれし のり

3. (Bass) (バリトン)  
 こゝろの あはれし のり  
 こゝろの あはれし のり

4. (Soprano) (ソプラノ)  
 まー あらいの ー とつらと ー あける とき  
 まー あらいの ー とつらと ー あける とき

5. (Alto) (アルト)  
 まー あらいの ー とつらと ー あける とき  
 まー あらいの ー とつらと ー あける とき

78

5. (Tenor) (テナー)  
 る い まー あらいの ー とつらと ー あける  
 る い まー あらいの ー とつらと ー あける

6. (Bass) (バリトン)  
 る い まー あらいの ー とつらと ー あける  
 る い まー あらいの ー とつらと ー あける

33. と き か ら し め や く る し  
 と き か ら し め や く る し

1. たとえば君が 傷ついて  
くじけそうに なった時は  
かならず僕が そばにいて  
ささえてあげるよ その肩を  
世界中の 希望のせて  
この地球は まわってる  
※ いま未来の 扉を開けるとさ  
悲しみや 苦しみが  
いつの日か 喜びに変わるだろう  
I believe in future  
信じてる※

2. もしも誰かが 君のそばで  
泣きだしそうに なった時は  
だまって 腕をとりながら  
いっしょに歩いて くれるよね  
世界中の やさしさと  
この地球を つつみたい  
いま素直な 気持ちになれるなら  
憧れや 愛しさが  
大空には じけて 輝くだろう  
I believe in future  
信じてる

Believe

杉本竜一

授業評価	視点 (具体的な子供の姿, 資質・能力, 教師の意図を見る)		◎・○・△・×	コメント メモ
学習 指導案	実態	前時～繋がり～次時, 子供の思考の流れ, 子供の姿の細分化・類型化が見えるか		
	材	追究できる (材のうまみ・面白み, 場・環境) もの, 子供の主体が持続し, 影響力を発揮できるものか。		
	目標	本時で育てたい力, 影響力発揮の様相を含む目指す子供の姿が見えるか		
授業中	導入	子供たちにとって必然性や切実感, 文脈のある学習活動が設定されたか		
	展開	学び合いの中で影響力を発揮し合い, 育てたい力を身に付けるための関わりが見られたか		
	終末	活動結果を自らが意識でき, 育てたい力が身に付くように構想されていたか		